

# In the Spotlight

## IFRS 第 9 号に基づく予想信用損失の開示

2020 年 7 月 16 日

### 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響下にある銀行の期中財務諸表の開示において重視すべき領域

#### 要点

国際財務報告基準(IFRS)第 9 号「金融商品」に基づく予想信用損失の開示の説明および理解には、困難が伴います。COVID-19 によって引き起こされた不確実性の増大により、財務諸表利用者は、「ストーリーを語る」開示に関心を示しており、この傾向は今後も続くと考えられます。本資料では、このような開示を開発し、精緻化していく上でどこに注力すべきかの視点を示しています。

IFRS 第 9 号に基づく予想信用損失(ECL)の計算は、複雑です。例えば、銀行は、複雑なモデルを用いて将来予測的な見積りを行うために過去データや将来に関する仮定を用いることが要求されています。ECL の見積りを行うにあたり、各銀行は、それぞれの事実および状況に固有のデータ、仮定、モデル、手法を用いる必要があります。このような複雑性は、銀行による説明および財務諸表利用者による理解を困難にしている可能性があります。こうした困難さは、経済が最も好調な時期でも生じますが、COVID-19 によって引き起こされた不確実性により、現在はさらに困難な状況になっています。

ECL の開示要求は、概ね原則的なものであり、規範的なものではないため、このことが開示の多様性をもたらしている可能性があります。当然のことながら、投資家、銀行監督当局およびアナリストは、すでに開示内容の比較を開始しており、例えば、将来予測的な情報やシナリオのウェイト付けに関する情報の堅牢性に関する期待を表明しています。PwC は、「ストーリーを語る」堅牢な開示に対するこのような関心は今後も続くことと予想しており、適切な開示は、以下の 3 つの主要な要素に焦点を当てることにより達成される可能性があると考えています。

## 1) 前年の年次報告期間からの重要な変更

期中財務諸表は、前年の年次財務諸表に含まれる情報の更新を提供することを目的としたものです。国際会計基準 (IAS) 第 34 号「期中財務報告」は、読者が年次財務諸表にアクセスできることを前提としており、企業がすでに提供された開示を繰り返さないことを許容しています。IAS 第 34 号は、企業による開示が、前年の年次報告期間以後の企業の財政状態および業績の理解にとって重要である新たな活動、事象および状況に焦点を当てることを要求しています。これらすべてが、既存の開示内容 (例えば、情報の粒度、正常債権と不良債権における引当金の差異、直接償却を含む ECL の変動など) を再検討し、現在の環境において何が変わったのか (例えば、顧客救済プログラムおよび政府の救済措置に関する取扱い、受給率、ECL の定量化に関連するプロセスの大幅な変更など) に細心の注意を払う理由になります。

ほぼすべての状況において、世界的なパンデミックの経済的影響は著しい変化をもたらしており、関連する不確実性も大きく高まる可能性があります。さらに、企業は、どのような開示に重要性があるかを再検討する必要がある場合があります。この点について、IFRS は、当年度に適用される新しい定義を示しており、重要性があるとは、「それを省略したり、誤表示したり、覆い隠したりしたときに、特定の報告企業の財務情報を提供する一般目的財務諸表の主要な利用者が当該財務諸表に基づいて行う意思決定に影響を与えると合理的に予想し得る場合」とされています。

## 2) 将来予測的な情報および判断

将来予測的な見積りを理解するためには、使用されるインプットおよび将来に対する判断に関する情報が鍵となります。これには、ECL の算定にあたって使用される、複数の経済シナリオに基づくマクロ経済の主要な変数についての更新された予測、各シナリオに割り当てられている確率加重、各シナリオで計算された確率加重前の ECL の金額が含まれる可能性があります。不完全であることは確かであり、複数のシナリオに基づく ECL の感応度分析も意味のある開示となる可能性があります。こうした開示により、見積りに固有の不正確さを財務諸表の利用者に十分に理解させることができ、合理的な範囲の生じ得る結果を提供することが可能になるためです。多くの場合、銀行は年次報告においてこうした情報を提供しますが、現在の状況を踏まえると、期中財務諸表においても開示が必要になる可能性が高いといえます。

減損に用いられるモデルと市場インプット (基礎となる貸付金の公正価値の開示に用いられるインプットなど) との相互関係を説明することも適切です。例えば、市場における信用スプレッドおよび関連する債務不履行の発生確率の拡大が、関連するエクスポージャーの ECL に (上場商品または代用数値のいずれかを通じて) 反映されているかどうかを説明することが考えられます。市場データによる仮定と財務諸表におけるその他の領域の見積り (例えば、公正価値) との整合性は、企業および財務諸表利用者の双方が理解すべき重要な領域です。

## 3) モデルのパフォーマンス

将来予測的な情報および判断に加えて、ECL の見積りにおける不確実性の主要な発生要因は、モデルのパフォーマンス、特にモデルを調整する必要性です。大まかに言えば、モデルは、現在の状況とは異なるように見える過去データを用いて開発されているため、多くの場合、モデル自体またはアウトプットのいずれかの調整を行う必要があります。こうした調整が必要となる場合には、なぜ調整が必要であるかを開示するとともに、調整がどのように行われ、どのような不確実性が残されているのかを明確にすることが重要です。定量的、定性的、あるいはその両方の開示のいずれにおいても、モデルのパフォーマンスおよび調整に関する詳細な開示は、財務諸表の利用者に、経営者の見積りと判断のレベルおよびそれに内在する不確実性について重要な洞察を与えます。

ECL を見積もることは困難を伴うものであり、現在の状況ではなおさら難しい可能性があります。このため、見積りの不確実性の発生要因および経営者の判断に関する開示を含む説明的な開示が、より目的適的な開示になるといえます。

© 2020 PwC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC Network and/or one or more of its member firms, each of which is a separate legal entity. Please see [www.pwc.com/structure](http://www.pwc.com/structure) for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.